（別紙）

令和３年度　多様性に応じた新時代の学び充実支援事業成果の概要について

団体名：早稲田大阪学園
［調査研究校：向陽台高等学校］

調査研究課題名：多様な児童生徒のための「小中高大」を貫く EdTech を活用した通信制教育の可能性 の検討
—本校と、北摂の教育委員会等との向陽台コンソーシアムによる、一人も取り残さない教育の在り方の検証—

調査研究概要（300～400 字）：

大阪府北部の北摂７市３町教育委員会と連携した「向陽台コンソーシアム」構想具体化のため、各市町を訪問し連携を深めた。また、実証研究委員会の立ち上げ、茨木市内不登校小中学生への支援（本校開講の体験的講座への参加）、「放送教育題材」研究のための資料収集、北摂地域の教育委員会等と連携した「向陽台コンソーシアム」への連携要請、「学びのポイントラリー」（安威川ダム見学講座、小規模牧場での講座の立ち上げ）、「ミニプロジェクト学習」（キャッチコピー講座）での対話型論証モデルと ICT などは順調に推移した。
コロナ禍のため 3 学期には茨木市内小中学生が本校に登校できず、また、山陰海岸ジオパーク館（兵庫県新温泉町）等で予定していた「IoA 仮想テレポーテーション」の遠征活用も延期となり、当初の事業計画通りには進まなかった面もあるが、本格的な実証研究の準備段階として、基盤と方向性を確立できた 5 か月間であった。

成果および評価

実証研究の初年度、広域通信制高校が所在地域において、様々な教育活動を展開できる可能性を秘めていることを、学内や北摂各教育委員会と共有できた。この、意識の共有が成果として大きなものであった。

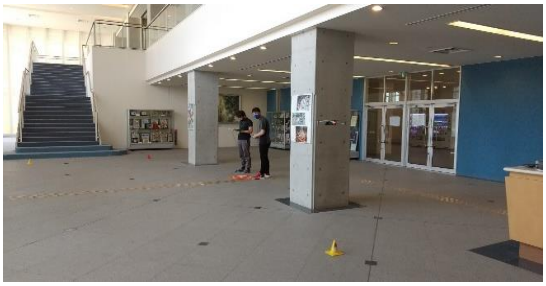
本研究 11 月中旬にスタートし、「実証研究委員会」を 12 月に立ち上げ、毎月 1 回会議を実施し、議論や方向性を深めた。また、「実証研究委員会」内で、「指導・助言」の先生方に 2 回の特別講演を依頼し、知見を広めた。さらに、「実証研究委員会」の方向性を職員会議等の会議体と共有し、同一法人の早稲田摂陵中学校・高等学校とも情報共有を行った。

北摂各市町教育委員会を訪問する中で、新たな包括的連携協定を締結するところまでは至らなかったが、「向陽台コンソーシアム」構想を理解していただくことはできた。当初計画していた、北摂の大学や企業、社会教育施設との連携も計画通りには進まなかった。次年度の課題である。

（１）不登校小中学生支援の取り組み

茨木市教育委員会との連携協定による「不登校小中学生支援の取り組み」では、年間 10 名の小中学生が、のべ 56 回の本校における「体験型講座」を高校生とともに受講した（資料①参照）。

【写真①　ドローン演習講座】



【写真②　ドローン演習講座】

この間、次のような事例があった。

① 学校や適応指導教室にも全く通えていない小学生が、4 種類の講座に参加し、約 6 カ月間継続的に参加することができた。

② 受講教室のドアの前で固まり、教室に入れなかった小学生が、初対面の別の小学生と一緒に入室でき、受講できた。

③ 高校生に交じって、小中学生、引率の大学（院）生、保護者が同一空間に共存する「ドローン」講座に参加した中学生が、「この雰囲気なら大丈夫」と感じて以降、中学校に再登校できるようになった。このケースも参考として、「不登校小中学生支援」と「高齢者支援（本校講座への参加）」を同時に行う、「小中高大・高齢者」一体型のスクーリング（世代一貫型教育、100 年一体型教育）への展望も持つことができた。

④ 高校進学への不安が強かった中学生が、高校生にまじって受講する中で自信が芽生え、志望校を確定した。

⑤ 母子密着が強い小学生が、「ドローン」講座で、徐々に母親から離れ、ドローン操縦を主体的に行うようになった。

「不登校」の問題を考える上で各事例から、様々なヒントを得ることができた。

特に、初めて見知らぬ高校で高校生に交じって講座を受講するということは、不登校児童生徒にとって大きなチャレンジだと思っていたが、大半の児童生徒は外見上違和感なく講座体験を楽しんでいた。これにはいくつかの要因が考えられる。

第一に、児童生徒自らが、各自の興味関心を持つ講座を「選択」したこと。第二に、引率の大学（院）生、保護者、教育委員会の方等の視線に見守られての受講であったこと。第三に、多様性に満ちた通信制高校生が互いに干渉することなく学ぶ姿や、教室内に同調圧力がなく開放的な文化性が醸成されていること。

これらの要素が複合的に各児童生徒の中でブレンドされ、「学びの原点」としての「各自の興味を純粋に探究できる場」が形成され、「自立の契機」としても機能したと考えられる。この「学びの空間」の発見は成果の一つであり、今後事例を積み上げ、さらに考察を深めていきたい。

評価指標の一つとして、この期間に計画していた受講者および保護者への「受講アンケート」は、コロナ禍もあり実施できなかった。

（２）既存の放送教育題材を中心とした学びの整備・充実

「既存の放送教育題材を中心とした学びの整備・充実」のため、ＮＨＫ高校講座、ＮＨＫ for School、JMOOC、Asuka Academy、早大オンデマンド講座等の放送題材資料を収集した。特定分野（単元）を絞って各放送教育題材を横断的に研究する予定であったが、本格的な研究までには至らなかった。令和 4 年度以降、研究を継続したい。

（３）教科横断的「プロジェクト学習」に地域の社会的資源を活用した学びの充実

教科横断的「プロジェクト学習」に地域の社会的資源を活用した学びの充実、に関しては、「安威川ダム見学」講座・「馬を学ぼう」講座の新規 2 講座を開講できた。

この間、下見した「京都大学阿武山（地震）観測所」、「茨木市立キリシタン遺物史料館」の活用とともに、地域の社会的資源を「学びのポイントラリー」へと展開する土台ができたと感じている。

また、生徒への事後アンケートでは身近なエリアでの新発見や、興味の発掘、「価値観の転倒」に言及した内容が多かった。

【写真③　安威川ダム見学講座】

【写真④　安威川ダム見学講座】

【写真⑤　馬を知ろう講座】

【写真⑥　馬を知ろう講座】

【表１　馬を知ろう講座　事後アンケート（抜粋）】

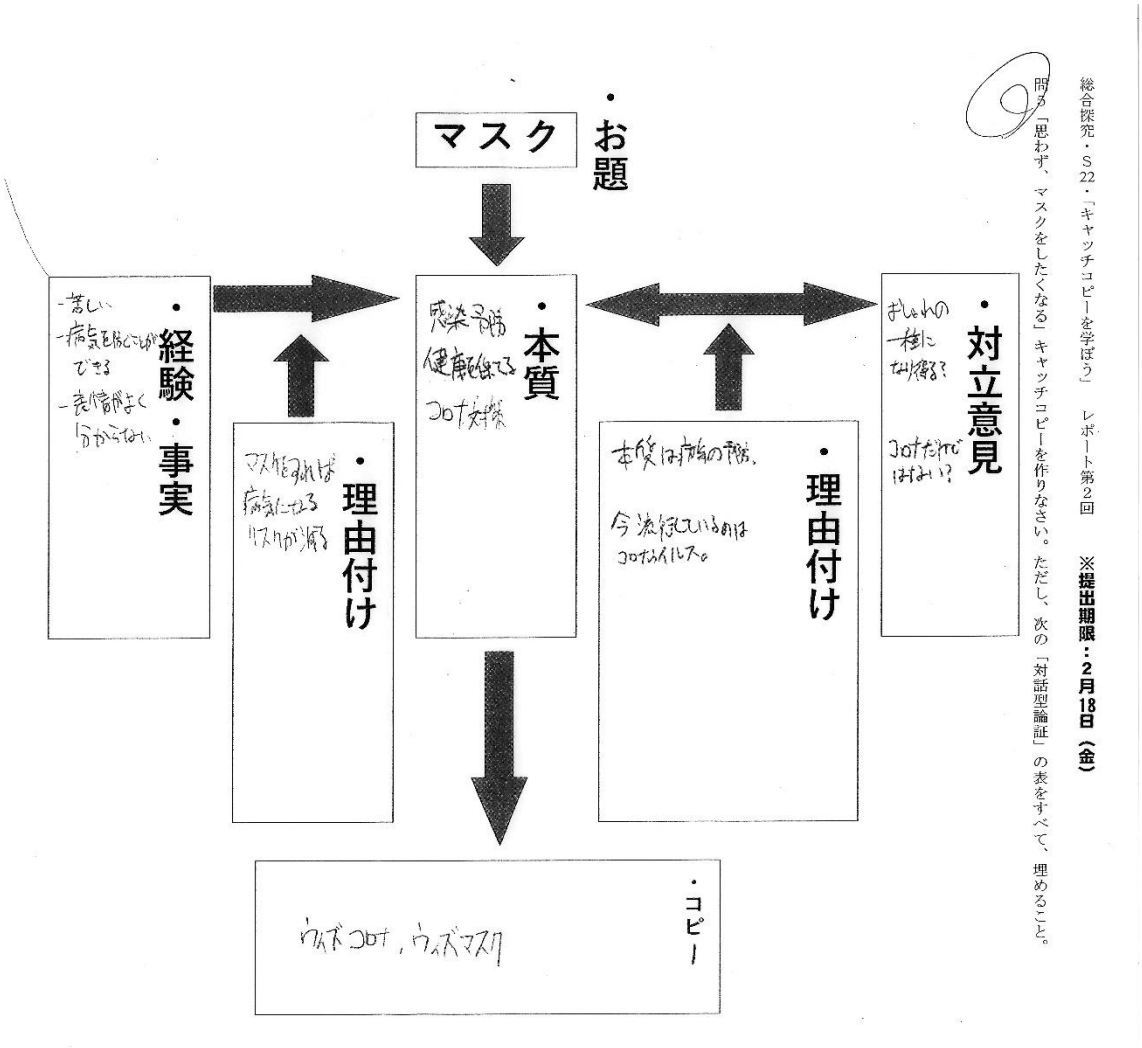
とても楽しかったです。馬に触ることができたりいつもとは違う自然の中での授業が新鮮で面白かったです。
動物に興味があって受講したのですが、あっという間に 2 時間経っていて非常に面白かったです。馬に興味が湧き、乗馬もしてみたくなりました。また似た授業があれば受講したいです。
私は中学生の頃に乗馬を習っていたので、あまり新しい発見などはありませんでした。ですが、乗馬に使われる馬は主に元競走馬らしく、気性が荒かったり落ち着きの無い子が多かったので、ぱかぽこひろばに居たポニーと関わってみて「馬ってこんなに大人しいんだ…」と少しおどろきました。スタッフの方々も優しく、親切にしてくださったので、機会があればまた行ってみたいです。
将来、馬の調教をする仕事をしたいと思っているので、改めて、馬の調教の仕方、本当に大事な人間と馬の在り方が分かった。
思っていたよりも馬との距離が近くてたくさんふれあえたので、馬のことをたくさん知れたし、馬のかわいさがよく分かりました。
総合の授業で馬とふれあえるという事がとてもわくわくして楽しかったです。軽くなでたりできる施設はあっても一緒に散歩できる所はあまりないので貴重な体験ができました。まあまあ長い時間馬の顔があんなに近くにある事はそうそう無いので楽しかったです。

（４）学習者の学びを通した学習モデルの検討・提示

学習者の学びを通した学習モデルの検討・提示に関しては、「総合的な探究の時間」枠で、「ミニプロジェクト学習」として「キャッチコピーを学ぼう」を開講した。このスクーリングでは、生徒各自がクロームブックで作成した「キャッチコピー」に、それぞれが投票して優秀作品を決定した。また、教員 2 名とスクールカウンセラー1 名が教室に入って、「IoA 仮想テレポーテーション」の試行等 EdTech を活用して実施した。ただ、教員・生徒それぞれが技術的に不慣れな面もあって EdTech を十分に活用できたとはいいがたい。今後は教室内 EdTech 総体としての「準備、連携」が課題として残った。

また、キャッチコピーの作成に際しては、京都大学高等教育研究開発推進センター 松下佳代教授の「対話型論証モデル」を参照・活用した。説得力のあるキャッチコピーを作るには、コピー作成者の経験（実感）に裏打ちされた、テーマの本質把握が必要であり、さらには読み手の反論も想定した論駁が必要となる。そのトレーニングとして、図１のフォームを導入した。

「『思わず、マスクをしたくなる』キャッチコピーを作りなさい」というレポート課題で、「対話型論証」の表を埋める形式とした。



【図１　キャッチコピー講座：対話型論証モデル、生徒のレポートより】

まず、「マスク」というテーマに関して、生徒自身が自己の「経験・事実」を思い出し、マスクの「本質」を考える。次に、その本質を踏まえて「キャッチコピー」を作成する。さらに、自分の考えた「本質」への対立意見を考える。続いて、その対立意見への反論（論駁）を考えながら、キャッチコピーの修正・練り上げを行う。その一連の思考の流れを可視化した表を埋めることによって、説得力あるキャッチコピーを作成するというねらいであった。

この講座で生徒たちは、「青春を立ちこぎで」（テーマ：自転車）、「夏の前奏」（テーマ：梅雨）、「みんなのために。じぶんのために。」（テーマ：マスク）、「機体の星」（テーマ：ドローン）、氷の中の熱（テーマ：北京五輪）など、直感的に優秀なコピーを作ってくれた。

その無意識の思考プロセスを、意識的に可視化することにより、「内なる他者」との対話が始まり、深い理解へと進んでいく。この思考回路は、コピー制作にとどまらず、日常での思考や「他者」との対話にも有効である。

また、心身のバランスが不安定で他者からの視線が気になり、視野狭窄に陥りがちな思春期にあって、豊かな発想力や人間理解を必要とする「キャッチコピー制作」は、世界や時代、人間に対して触手を伸ばす「言葉作り」でもあり、多様な観点や可能性を探る学びの「入口」でもある。

「GIGA スクール構想」（Global and Innovation Gateway for All）とは、「小学生の児童、中学生の生徒１人に１台の PC と、全国の学校に高速大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子供たちに最適化された創造性を育む教育を実現する構想」である。

「最適化された創造性を育む教育」としての学習モデル「キャッチコピー制作」は、「発想開発」（言葉の新たな連結）として、「Innovation」を生み出す土壌を形成すると考えられる。

これは、非認知能力などメタ認知や、俯瞰的意識の形成にも関与する可能性があると考えているが、この実証については今後の課題である。

さて、この「対話型論証」の表は、創作・思考過程を「見える化」できた点で有効であったが、運用面での改善の必要性も感じている。

試行段階ではあるが、本格的なプロジェクト学習のトレーニングとして「ミニプロジェクト学習」は有効であり、通信制高校における「EdTech によるプロジェクト学習」展開の可能性が見えたのも一つの成果であった。

令和 3 年度の取り組みは、学習モデル作成（本格的な実証研究）の準備段階ではあったが、今後の研究のための基盤を構築できたと感じている。

次年度以降の課題・展望

令和３年度には「実証研究委員会」および「不登校勉強会」を毎月開催し、ＰＤＣＡサイクルを回して随時検証、改善に努めた。令和４年度は、３年度実施内容を継続し、さらに学習ログの活用や、各種アンケート、評価指標等を充実させていく予定である。

また、令和３年度は「学校運営会議」、「職員会議」、「早稲田摂陵中学校・高等学校」、「学園プロジェクトの EdTech 研究会」と連携し、学校・学園全体として「実証研究委員会」への支援体制が構築できた。さらに、北摂地域の各教育委員会と相談・協議し本事業への理解を深めることができた。令和４年度には、これらを継続し、さらには北摂地域の社会教育施設、大学、企業等とも交流・連携し、寄せられた意見も踏まえて事業の改善に努めるとともに、学習ログ等の活用を図り、個別最適な学びの場の検討を深めていきたい。

令和３年度の茨木市教育委員会との連携協定における「不登校小中学生支援の取り組み」では、年間 10 名の小中学生に対して、のべ 56 回のスクーリングを実施した。令和４年度は、さらに事業の周知に努め、また関係者へのアンケートや評価指標、学習履歴を記録する EdTech 活用を充実させて、実証研究を進める。

実施計画書の「調査研究の内容・方法」では、「新しい方法」を３点提示した。

（別紙）

まず、１点目の「既存の放送教育題材を中心にした学びの整備・充実」に関しては、令和３年度は資料収集の確認段階であり、令和４年度より本格的に分類・整理・連接・活用に取り組んでいく。

次に２点目の「教科横断的『プロジェクト学習』に地域の社会的資源を活用した学びの充実」に関しては、「安威川ダム」、「ぱかぽこ広場（牧場）」を、「総合的な探究の時間」として、講座を実施した。「京都大学阿武山（地震）観測所」、「茨木市立キリシタン遺物史料館」は下見を実施。令和４年度は、「IoA 仮想テレポーテーション」を積極活用し、講座の質・量ともに充実させる。

３点目の「学習者の学びを通した学習モデルの検討・提示」では、ミニプロジェクト学習において、「対話型論証モデル」を通信制の生徒向けにカスタマイズしたい。また、EdTech 活用をより推進し、LMS 展開のもとで、クロームブック、「IoA 仮想テレポーテーション」、メタバース、VR 機器等を活用して、バーチャルな学びとリアルな学びの「ハイブリッド型学習モデル」の可能性と有効性を検証したい。

令和４年度の研究では、上記１～３の学習方法を総合して、小学生・中学生・高校生から高齢者の全てが参加可能な「多様性に応じた新時代の学び」講座を研究開発し、協働の学びとキャリア教育のあり方を検討していきたい。

（別紙）

資料　①

茨木市との不登校支援連携について（報告）

【Ⅰ期前半】（4/23 金～6/3 木）※コロナ禍のため、5 月以降に実施。

① 5/11（火）4 限目「アロマテラピー」：小２女子１名出席
　・生徒会館１F の見学、引率：職員３名

② 5/18（火）4 限目「アロマテラピー」：小２女子１名出席
　・第１グラウンド早摂サッカー部練習の見学、引率：職員２名
　・生徒会館 2F「間違い探し写真」等の見学

③ 5/25（火）4 限目「アロマテラピー」：小２女子１名出席
　・図書館・生徒会館 2F の見学、引率：職員１名

④ 6/1（火）4 限目「アロマテラピー」：小２女子１名出席
　　4 限目「英会話」の延長指導（14:10～14:30）：小２、小３女子計 2 名出席
　・図書館の見学、引率：職員２名

【Ⅰ期後半】（6/24 木～7/30 金）

① 6/29（火）4 限目「ドローン」：
　小２女子、小３女子、小５女子、中２男子、中３男子各１名、計 5 名出席
・第２グラウンド⇒生徒会館、引率：職員２名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ３名、見学：中学教員１名
・生徒会館 2F の見学

② 7/6（火）4 限目「ドローン」：
　小２女子、小３女子、小５男女、中２男子、中３男子各１名、計 6 名出席
　・生徒会館、引率：職員２名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ３名

③ 7/13（火）4 限目「ドローン」：
　小２女子、小３女子、小５男女、中２男子、中３男子各１名、計 6 名出席
　4 限目「ピラティス」：中１女子１名出席
　・体育館、引率：職員２名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ３名

④ 7/20（火）4 限目「ピラティス」：中１女子１名出席予定　⇒　欠席

⑤ 7/27（火）4 限目「ピラティス」：中１女子１名出席
　・引率：職員２名

【Ⅱ期前半】（9/21 火～10/25 月）

① 9/21（火）4 限目「ロボット演習初級」：
　小２女子、小５男子、中３男子各１名、計３名出席
　・642・643 合併教室、引率：職員１名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ１名

② 9/28（火）4 限目「ロボット演習初級」：

（別紙）

小２女子、小５男子、中３男子各１名、計３名出席

・642・643 合併教室、引率：職員２名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ１名

③ 10/5（火）4 限目「ロボット演習初級」:

小２女子、小５男子、中３男子２名、計４名出席

・642・643 合併教室、引率：職員２名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ１名、保護者２名

④ 10/8（金）4 限目「ピラティス」: 中１女子２名、中３女子１名、計３名出席

・体育館、引率：職員１名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ１名

⑤ 10/12（火）4 限目「ロボット演習初級」:

小２女子、小５男子、中３男子各１名、計３名出席

・642・643 合併教室、引率：職員１名＋大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ１名、保護者１名

⑥ 10/15（金）3 限目～6 限目「総合的な探究の時間 Ｓ19 地域探訪」:

・Ｓ11 教室 ⇒ 安威川ダム、中３男子１名出席、引率：職員１名

4 限目「ピラティス」: 中１女子１名、中３女子１名、計２名出席

・体育館、引率：職員１名

⑦ 10/22（金）4 限目「ピラティス」: 中１女子２名、計２名出席

・体育館、引率：職員１名

【Ⅱ期後半】（11/16 火～12/21 火）

① 11/16（火）2 限目「ロボット演習上級」:

中３男子２名出席

・622 教室、引率：職員１名＋保護者１名

② 11/19（金）3～6 限目「総合的な探究の時間 Ｓ19 地域探訪」《馬を知ろう》:

中１女子、中３女子各１名、計２名出席

・ぱかぽこ広場、引率：職員１名

③ 11/30（火）2 限目「ロボット演習上級」:

中３男子２名出席

・622 教室、引率：職員１名＋保護者１名

④ 12/7（火）2 限目「ロボット演習上級」:

中３男子２名出席

・622 教室、引率：職員１名

⑤ 12/14（火）2 限目「ロボット演習上級」:

中３男子２名出席

・622 教室、引率：職員３名+外部見学者５名。

⑥ 12/14（火）4 限目「ピラティス」: 中１女子１名出席

・体育館、引率：職員２名

※ 参加者数 10 名（実数）、参加回数 56 回（のべ数、Ⅱ期後半まで）

（別紙）

【参加小・中学生一覧】（～Ⅱ期後半）

① 小２：Ａ女＝「アロマテラピー」（Ⅰ前；４回）、「英会話」（Ⅰ前；１回）、
「ドローン」（Ⅰ後；３回）、「ロボット演習初級」（Ⅱ前；４回）⇒計 12 回
② 小３：Ｂ女＝「英会話」（Ⅰ前；１回）、「ドローン」（Ⅰ後；３回）⇒計４回
③ 小５：Ｃ男＝「ドローン」（Ⅰ後；２回）、「ロボット演習初級」（Ⅱ前；４回）⇒計６回
④ 小５：Ｄ女＝「ドローン」（Ⅰ後；３回）⇒計３回
⑤ 中１：Ｅ女＝「ピラティス」（Ⅰ後；２回）、（Ⅱ前；３回）⇒計５回
⑥ 中２：Ｆ男＝「ドローン」（Ⅰ後；３回）⇒計３回
⑦ 中３：Ｇ男＝「ドローン」（Ⅰ後；３回）、「ロボット演習初級」（Ⅱ前；４回）、
「ロボット演習上級」（Ⅱ後；４回）⇒計 11 回
⑧ 中３：Ｈ男＝「ロボット演習初級」（Ⅱ前；１回）、「総探 安威川ダム見学」（Ⅱ前；１回）、
「ロボット演習上級」（Ⅱ後；３回）⇒計５回
⑨ 中１：Ｉ女＝「ピラティス」（Ⅱ前；２回）、「総探 馬を知ろう」（Ⅱ後；１回）、
「ピラティス」（Ⅱ後；１回）⇒計４回
⑩ 中３：Ｊ女＝「ピラティス」（Ⅱ前；２回）、「総探 馬を知ろう」（Ⅱ後；１回）⇒計３回

※ 参加者数 10 名、のべ参加回数 56 回（Ⅱ期後半まで）

以上